

園長だより「ちゃんとしなさい」 第21号

皆さんはお子さんに対して「ちゃんとしなさい」って言葉をよく使いませんか。仕事柄、私は子ども達に対して結構使っていました。でも、ある時期から意図的に使わないようにしました。

「ちゃんとする」大人になってもちゃんとするのはなかなか難しいですね。社会性や基本的な生活習慣や規範意識、そして生活するためのスキルなどがそれなりに身に付かないとその場その時に応じた「ちゃんと」ができません。大人は当然「ちゃんとしなさい」と言われると、今までの経験を生かしてその状況を作ろうと努力します。子ども達はどうか。いろいろな経験値が低い上に「ちゃんとする」という中身が理解できないことで混乱してしまうおさんは少なくないと思います。だから、おさんにはその場その時の「ちゃんとする」の中身をできるだけ具体的に教えてあげたり、見本を見せてあげたりすることが大切です。

公共の交通機関に乗る時の「ちゃんとする」、食事をする時の「ちゃんとする」、遊ぶ時の「ちゃんとする」、映画を見る時やコンサートを見る時の「ちゃんとする」、箸やナイフ・フォークを「ちゃんと持つ」……。私たちが生きていく上で「ちゃんとする」「ちゃんとしなければいけない」ことは際限なくありますね。

私たちは大人として、そして保護者の責任として、お子さんの成長（身体面・精神面）に応じて、お子さんに少しずつ具体的な「ちゃんと」を身に付けさせていかなければいけません。そのためにも、お子さんを「ちゃんとしなさい」と叱る前に私たち大人、そして保護者の皆さんがお子さんの良き見本でなければいけないと思います。子ども達はもともと「ちゃんと」の中身を知りません。お子さんがちゃんとできないのは、どうすることが「ちゃんと」することなのかがわかっていないことが多いのです。

お子さんとお出かけされている時の話です。「車の交通量が少ない道路。信号は赤。車は見えない。渡れそうだ。」こんな時、皆さんはどうされますか。お子さんと一緒に渡ってしまいますか。青信号までしばらくお待ちになりますか。

当然のことですが、お子さんに「ちゃんとした」規範意識を身に付けさせるためには次の青信号まで待つというのが正解です。決して難しいことではありません。私たち大人が当たり前のことを当たり前に続けていく。こんな当たり前の積み重ねが大切だと思います。まさに「ちゃんとする」のSDGsです。子どもは親の言った通りにはしてくれないものですが、親のする通りにはするものです。

ただ、残念なことですが現実では私を含めて全ての大人が全ての面で「ちゃんとしている」わけではありません。今、規範意識は大切だとお話している私自身が40年以上前になりますが、原付バイクに乗っていてスピード違反をして、反則金を国庫に納入したことがあります。説得力が一気に低下してしまいますね。本当に申し訳ありません。もちろん、保護者の皆さんは私のような大人ではないと思いますが……。